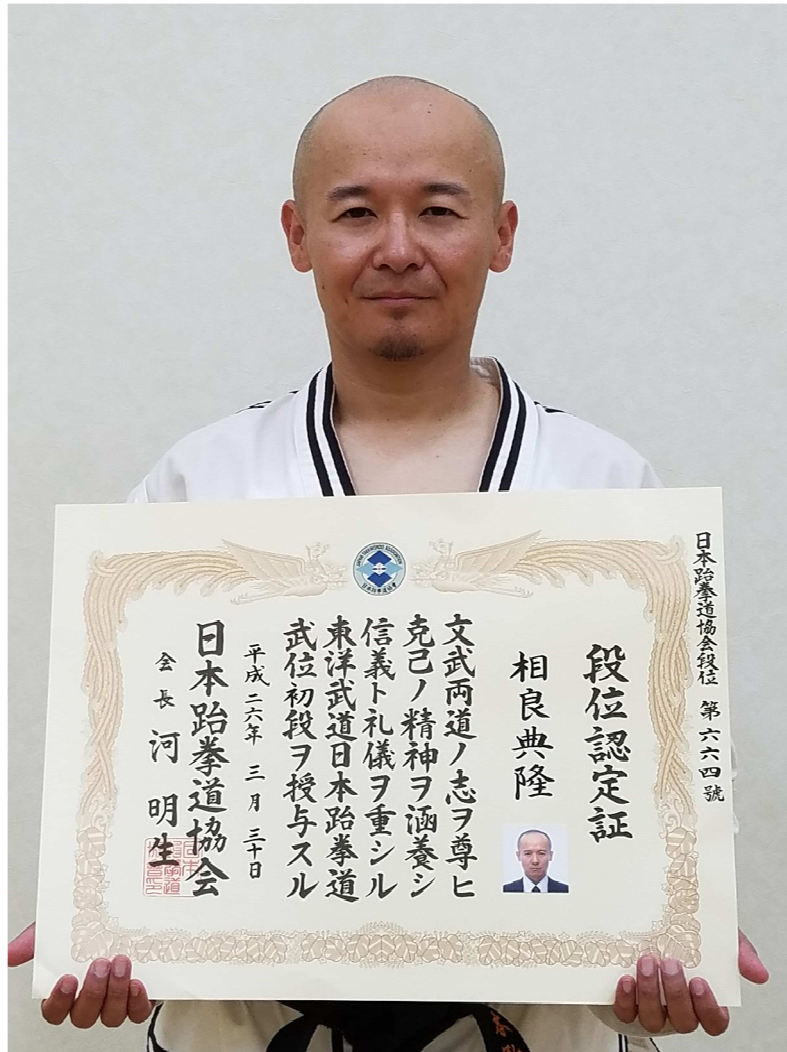


「私こそテコンドー・オタクです」

相良 典隆 (鹿児島曾於テコンドー同好会 41歳)



私が初めてテコンドーの存在を知ったのは、高校生の頃でした。格闘技雑誌や格闘技ビデオで目にした足技の多彩なこの武道に興味をもったものの、鹿児島のような地方都市には道場もなく、自分には縁のない世界だと思っていました。

それから数年が経ち、大学3年生の終わりに近所の不動産屋でテコンドーの道場のポスターを見かけました。「なんとっ！ついに鹿児島にもテコンドーの道場ができたのか！！」就職活動で忙しい時期ではありましたが、すぐに入門を決めました。テコンドーにあこがれを抱いていたこともあり、その魅力にどんどんのめり込んでいきました。そんなある日、1つの疑問が浮かんできました。「あれ～？雑誌やビデオで観たテコンドーは手足に防具をつけて戦っていたんだけどな～。あと、道着の黒い部分が違うような…。」…そう、私が高校時代に知ったのはITFテコンドー。しかし、鹿児島にできたのはWTFテコンドーの道場だったのです。もっとも、あまりルールの違いも分からず選択の余地はなかったので、就職してからもそのままWTFを続けました。教員となって地方に赴任した私は鹿児島市の道場に通うのが難しくなり、霧島市・曾於市・鹿屋市に新しくできた支部の指導をしながら、自分の練習にも取り組みました。働きながらテコンドーを続けるというのは体力的

にきつい部分もあり、時には帰宅しても車から降りることができずそのまま寝てしまうこともありました。それでも、テコンドーが好きだった私は辞めたいとは思いませんでした。

テコンドーを始めて10年ほどが経過し、大きな試練がやってきました。それは、「鹿児島県テコンドー協会の消滅」です。協会長が職を退くことになり、後を引き継ぐ者が誰もいなかったため協会が解散することになったのです。テコンドーを続けるためにどうすればいいのか、真剣に悩みました。その時、ある先輩から「宮崎のWTFに所属して練習を続けることもできる。ただ、宮崎まで行けばITFの道場もあるよ。」とアドバイスをいただきました。私は、これを機にかつて自分がやりたかったITFを1から学ぶことにしました。

平日は仕事を終えてから宮崎市の道場まで行っても間に合いません。そのため、月に1~2回土曜日に鹿児島市から宮崎市まで3時間運転していき、3時間練習してからまた3時間運転して帰ってくるというテコンドーライフが始まりました。平日は夜に勤務している学校の武道場を借りて、先輩と一緒に宮崎で学んだことを復習しました。簡単に道場に通える環境にいる人と比べると、不便な生活だったかもしれません。その分、練習できる時間を大切にして真剣に取り組むことができました。ITFは5年間ほど学びましたが、その間結婚や長男の誕生、転勤など私自身も大きな環境の変化がありました。さらに、宮崎まで練習に行く時間が取りにくくなってきた頃、宮崎のITFが都合により無期限の活動停止になりました。「家庭もできたしテコンドーを続けるのも難しくなってきた。ここらへんが潮時かな…。」そんな気持ちが大きくなってきた頃、共通の友人の結婚式である人物と再会しました。それが、現JTA鹿児島国分テコンドークラブの梅北徳彦クラブ長です。梅北クラブ長はWTF時代からの練習仲間で、私がITFを始めてからは疎遠になっていました。

「今、霧島市の国分でJTAという団体のテコンドーをやっています。よかったら見に来ませんか。」その当時国分に住んでいた私は、軽い気持ちで見学に行きました。そこでは、黒帯になったばかりの梅北クラブ長を中心に、一生懸命ミットを蹴る練習生の姿がありました。人数は少なくとも活気があり、私もテコンドーにあこがれて学ぶこと全てが楽しかった頃を思い出すことができました。「もう1度この空気の中で仲間と汗を流したい。」そう思った私は、何度かの体験練習を経て正式に入門し、現在に至ります。

1つのことを続けるというのは、簡単なようで難しく、複雑なようで実は単純なことのようには思います。学業や仕事、家庭や自身の健康状態など、生きていれば様々な事情が重なって、物事が思いどおりにいかないことが多々あります。そんな時、「だからテコンドーが続けられない」と思うのか、それとも「だからテコンドーを支えや楽しみにしてがんばっていこう」と考えるのか。その心のありようによって、その後の人生は大きく変わってくるでしょう。学生時代に週5~6回練習していたからといって、30代40代になってもそのクオリティを維持するのは難しいものです。体力や生活環境に応じて、その時の自分の精一杯でテコンドーと向き合えば、長く続けていけるように思えます。私は「テコンドーが好き」という気持ちだけで、ここまでくることができました。これからもその気持ちを忘れずに、テコンドー不毛の地鹿児島でJTAを普及していけるようがんばります！